

泰陵選手村施設見学および強化の取り組みについて

渡辺 英次（商学部准教授）、相澤 勝治（文学部講師）、吉田 清司（法学部教授）

1月22日（火）、韓国のエリートスポーツ発祥の地と言われ、現在も韓国スポーツ界を支え、エリートスポーツの拠点として選手をサポートしている泰陵選手村を視察した。

泰陵選手村はソウル市内から車で40分ほどの位置にあり、1966年8月大韓体育会で指導者と国家代表選手の強化訓練を目的に建てた総合トレーニング施設である。1922年制定の国民体育振興法と合わせて国家レベルのエリート体育育成政策の象徴と言われている。各々競技種目のナショナルチームとバックアップチームが随時入所し合宿を行い、合宿所、食堂を始めトレーニング施設、陸上競技場と人工芝サッカー競技場、室内外の各種競技場、国際規模の室内プールとスケートリンク等の施設を備えており、チームワークを整備し競技力の向上を図っている。

合宿所は468名収容可能（男性301名、女性167名）であり、選手の希望があれば選手村に滞在し、生活する事が出来る。現在、利用頻度の多い競技団体はフィールドホッケー、柔道、レスリング、アーチェリー、フェンシング、体操、ウェイトリフティング、バドミントン、ハンドボールである。施設の仕様は原則としてナショナルチームに限っているが、スケートリンク等一部施設においては住民に開放している。

韓国内には泰陵選手村の他に鎮川選手村、太白選手村が存在する。鎮川選手村は競技施設、科学サポートの拡充に伴い泰陵選手村の敷地が手狭になったため、2005年に設立された。現在第2期の拡充工事（step two）を行っており、2017年に完成予定である。完成後はエリートスポーツの拠点は鎮川選手

村に移設されるとの事であるが、ソウル市内から車で2時間ほどの距離にあるため、泰陵選手村の施設もそのまま維持させるとの事である。太白選手村は高地トレーニングを専門に行う施設であり、トレーニング施設、陸上競技場が併設されている。

今回の視察では時間的制約もあり泰陵選手村内の一部施設の視察に留まったが（数年前までは見学不可であったとの事）、韓国エリート選手の拠点をうかがい知る事が出来たことは、日本のナショナルトレーニングセンター、本学の体育会のサポートや体育寮のあり方を考える上で貴重な体験となった。

なお、現地ではKISSのソン先生、泰陵選手村事務局のり氏、キム氏の御好意により、お忙しい中各施設ご案内いただいた。この場を借りて感謝の意を表する。



400メートルトラック内では女子ホッケーチームが練習中。



選手村内では至る所に五輪のマークがみられた。



村内には各施設が分散して設置されていた。



合宿中の韓国レスリングチームと親交の深い佐藤研究員、久木留研究員が記念撮影



トレーニング施設内。入口をはいて左手にはトレーニングマシン、右手にはフリーウェイトトラックが整然と並んでおり、各選手黙々とメニューをこなしていた。

